

NAM アーカイブ&リサーチ 2022

信州の生活と版画—上野誠が見つめた戦後

会期：2022年10月27日（木）～2023年2月14日（火）

前期：10月27日（木）～11月23日（水・祝） 中期：11月25日（金）～12月27日（火） 後期：1月5日（木）～2月14日（火）

NAM アーカイブ&リサーチは、県内で行われた芸術活動や所縁ある作家を紹介する企画です。第1回目となる今回は、「信州の生活と版画—上野誠が見つめた戦後」と題して、戦前から戦後にかけて広がりを見せた、自身の生活を彫り出そうとする人々による創作版画の概略を辿ります。また、戦後に展開した生活版画を主導する役割を果たした長野市川中島出身の版画家・^{うえのまこと}上野誠（1909-1980）が見つめた戦後の様相を紹介します。



上野誠《掌上のはばたき》1964年 ひとミュージアム
上野誠版画館蔵*前期展示

展覧会概要

『NAM アーカイブ&リサーチ 2022 信州の生活と版画—上野誠が見つめた戦後』

会 期： 2022年10月27日（木）～2023年2月14日（火）

※会期中、作品保護のため上野誠作品のみ展示替え予定

前期／10月27日（木）～11月23日（水・祝）

中期／11月25日（金）～12月27日（火）

後期／1月5日（木）～2月14日（火）

会 場： 長野県立美術館 1F オープンギャラリー

観 覧 料： 無料

開館時間： 9:00～17:00

休 館 日： 水曜日(ただし 11/23 は祝日のため開館)、11/24 (木)・年末年始 (12/28-1/4)

主 催： 長野県、長野県立美術館

担 当： 古家満葉・茂原奈保子

※新型コロナウイルス感染症等、諸般の事情により変更が生じる場合があります。最新情報はホームページをご覧ください。

● 展示構成・見どころ

I 創作版画誌からのぞく生活

山本^{やまもと}鼎^{かなえ}らによって提唱された「自画・自刻・自摺」を標榜する創作版画の精神が根付く信州では、版画を愛好する人々によって数多くの同人誌が制作されました。本章では、須坂市で小林朝治らによって発行された創作版画誌『櫟^{くぬぎ}』や、下水内郡の小学校教師を中心とする研究会による『葵^{あおい}』など、北信地域で発行された戦前の版画同人誌を紹介し、身近にある風景や生活の中で感じたものを表現した版画から、当時の人々の暮らしの一端を概観します。

II 戦後の生活と版画教育

終戦後の荒廃した社会において、版画は時に文化の復興や人間性の回復を目的として学校教育やサークル活動の中で盛んに制作されました。“版画の町”といわれた信州・岡谷市では、疎開していた武井武雄が中心となり同地の文化運動の中核となる「双燈社」が誕生。

同会の一員である増沢荘一郎は、1954年に岡谷市で行われた第1回全国版画教育大会の開催に尽力し、学校教育における版画制作を推進しました。また、信州大学で教鞭を執った田原幸三は、同校の研究室や地域の団体に参加する人々と共に版画同人誌を制作するなど積極的な普及活動を行っています。本展ではパネルや資料を中心に、戦後の活動を振り返ります。



上野誠《働く炭焼き“ぼい”》1970年 ひとミュージアム
上野誠版画館蔵*中期展示

III 小特集：上野誠が見つめた戦後

上野誠は、労働や反戦への視点を通して一貫して平和への思いを版に刻み続けた作家です。自身の作品制作の傍ら、上野は1956年『生活版画』を著すなど、自分たちの生活のありのままを捉えようとする生活版画の普及にも努めました。本特集では、上野の60・70年代の作品から、戦後の様相とその作品世界を紹介します。